

# 群馬県大学図書館協議会 会報 第12号

発行 2004年8月31日  
 編集 群馬県大学図書館協議会  
 「会報」編集委員会  
 前橋市荒牧町4-2  
 (群馬大学附属図書館内)  
 ☎ 027-220-7169

## 特集：各館の課題や悩み

日常業務の中での問題点や困っていることを聞きました。

### 「4年制大学の図書館」 づくりに向けて 群馬パース学園短期大学図書館 館長 内藤 和美

本学では来年度の4年制大学設置に向けて準備が着々と進められています。これに伴い、教員と司書で構成されている図書館運営委員会より、1. 図書等資料の質と量（量的整備、質的整備）、2. 施設および設備（高崎校舎への分室設置、BDS導入の計画的準備、視聴覚資料の利用環境の整備）、3. 司書の増員、4. 学術情報の検索入手および他機関との連携相互協力の4項目にわたる提言「四年制大学化および校地が二地となることに伴う図書館のありかたについて」を大学に提出することにしました。同提言には、大学図書館基準などの基準集や『日本の図書館』掲載の他館データと本学データとの比較の資料を添付します。司書の準備としては業務アピールと情報リテラシー教育の一環を狙い、図書館ホームページの全面改訂を準備中です。

また、レファレンス能力向上のための自己研修、更には図書館機能が高山村と高崎の2箇所となることに対応して、均一なサービス提供ができるよう、内規等の整備にも取り組まねばなりません。

### 図書館改革 群馬県立医療短期大学 図書グループリーダー 井上 譲

去年、医療短期大学に赴任してから実行したいいくつかの改革を紹介する。①図書館ボランティア

の導入－書架が乱れていると感じたので、図書館ボランティアを募集して、朝の開館準備で行う書架整理を手伝ってもらうことにした。今現在、53名の登録あり。1冊でも多くの本と出会ってもらいたいし、もっともっと図書館に親しんでもらいたいと思っている。利用者から書架整理がきちんとされていてすばらしいとお褒めの言葉もいただく。②書架サインの作り直し－利用者が資料を探すのに戸惑っていることがあったので、サインをすべて作り直した。「この本どこにありますか？」と聞かれることが大分少なくなった。③著作権のポスターの貼付やコピー機への表示－教育機関なので、著作権についてきちんと理解して欲しいと思い、実行した。「複写申込書」が1日に大分提出されるようになった。その他、改革した点はまだまだあり、去年の学生アルバイトが「1年でこんなに変わったんですね。」と驚いていた。もっと良い図書館をと思っているが、3人体制では限界があることを痛切に感じる。頭数が増えることが更なる改革へつながると思う。

### 当面の課題

群馬県立女子大学附属図書館  
図書グループリーダー 富所 文弘

本学の課題は、予算や人事が絡む問題が多く、職員の努力だけで解決することはなかなか困難です。

現建物は、約25年前に建設された当時のまま、1階に事務室、2階にカウンターと分かれていますので、使い勝手がとても悪く、少ない職員では非効率的な運営とならざるをえません。加えて約

14万冊弱の図書は、収藏能力10万冊をはるかに超え、書庫は満杯状態で廊下や狭い閲覧室にまで溢れています。資料の廃棄も視野に入れていかなければなりません。図書館棟の増改築も予定はあるようですが、利用者へのサービスや今後の年間増加冊数・学部新設の增加分等を考えますと早急な対策が望まれます。

さらに、図書館情報システムの使い勝手の悪さも多方面から指摘されているところです。現行のデータ管理や閲覧業務など図書館関連業務に加え、使い勝手や新学部増設に伴う業務の増加等も考え合わせますと、早めにより高度な新システムの導入を検討していく必要があります。

最後に、職員の不足は、利用者へのサービス低下に直接繋がる問題であり、来年度以降、ますます増加するであろう図書館関連業務や学生・教職員・県民開放に伴う学外利用者への対応等にあたって、定数削減の狭間で深刻な問題となりつつあります。

## 目 下 の 課 題

群馬社会福祉大学図書館

司書 高草木 千鶴

群馬社会福祉大学図書館に配属されてから、早くも4ヶ月が過ぎようとしています。私にとってこの4ヶ月は、怒濤のような日々であるとともに、とても充実した日々であったように思います。

私は今年の3月まで公共図書館に勤務していました。同じ図書館と名の付く職場ではありますが、大学図書館での仕事は、私に司書として1から学び直す大きなチャンスを与えてくれたように思います。特に図書の分類と保存に関しては、公共図書館と大学図書館の性質の違いから再認識させられる点が多く、自分の至らない点や司書として求められているものについても気づかされました。

幸い、今年から本学でも司書教諭の資格が取得できるようになり、これから図書館に対する関心もますます高まってくることでしょう。これを機に自身のキャリアアップを図り、本学の特色である福祉系の知識を少しでも多く身につけ、大学図書館の司書として恥ずかしくないよう頑張っていきたいと思います。

目下の課題としては書架整理を充実させ、蔵書の把握と使いやすい図書館を目指すこと。学生との交流を大切にして、より良い図書館にしていければな

## 図 書 館 雜 感

桐生短期大学図書館

館長 野中 博雄

本年度より桐生短期大学図書館長となりました野中です。突然ですが、年輩の方ならご存じのペギー葉山の「学生時代」の歌詞の一節に「秋の日の図書館のノートとインクの匂い。枯葉の散る窓辺。学生時代。」というのがありますが、このイメージが私の図書館に対する心の原風景にあります。ここでのインクは印刷したての本のインクの匂いでありましょうか。もしくは万年筆のインクの匂いでしょうか。

「読書の秋。図書館での勉強。窓辺の枯葉を眺めながらの思索。」躁的な学生生活の中で静かに物思いに耽ることの出来る空間と時間。時代が変わり、蔵書数や検索方法が変わろうとも、図書館が提供できるサービスとはこの様な空間や時間ではないでしょうか。

私の少ない図書館経験の中で、早稲田大学、日本大理工学部、国際基督教大学、日本赤十字広島看護大学、南カリフォルニア大学、カリフォルニア州立大学フレゼノ校などの図書館は、ふと眺める図書館の窓に、瀬戸内海や、木々の緑や、その土地特有の景色が写り、思索に耽る時間と空間がありました。本学の図書館もその様な時間と空間が演出されているかどうか自問しながら職責を全うしたい。

## 一 般 開 放 に 向 け て

高崎商科大学図書館

本村 理恵子

本学図書館には、いろいろな課題が山積している状態です。開架、閉架ともに収容スペースが限界に近づきつつありますが、新たな収容スペースを確保することは難しく、廃棄も考えなければな

らない段階にきています。そのような中で、今いちばんの懸案事項は、図書館の一般開放です。この件につきましては、先日、加盟館のみなさまにはアンケートという形でご協力いただき、誠にありがとうございました。検討していく上で、たいへん参考になりました。セキュリティや現在の職員体制等、考慮しなければならない問題は数多くあります。今年度中に実施の方向に向けて検討しています。

## 蔵書の合理化

前橋工科大学附属図書館

倉林 邦男

書架に余裕がある時期は、どんな資料も受入し、書架に余裕がなくなると選別して受け入れるようになる。過去の受入資料の廃棄計画も浮上する。

ところが、不用なものは廃棄したいが、受入や装備に経費をかけてあり、いつか利用されるかもしれないなど、廃棄の条件が揃わない。

本学図書館の過去の事務書類に、監査委員会より「図書等の廃棄」に関する事務処理について改善して進めるよう指摘された。しかし「除籍及び賠償図書取扱内規」をつくったが、廃棄が進められた様子はない。理由は、「学内で意見がそれぞれ異なる。この前利用した資料が見たいと言わたときに困る。」など、除籍の決定が難しいということだ。

今、書庫の狭隘化、施設の間取りの不便さから資料はいくつかの空き部屋へ分散保存となり、サービスの対応や資料の運用などが合理的とは言えない。この見直しとして、平成15年度に再度、図書委員会で協議をおこない、「図書等の不用及び除籍の取り扱い基準」、「雑誌の保存区分」を定め、改善を進めています。



## 残すべきか棄てるべきか、 それが問題だ・・・

育英短期大学図書館

山田 愛子

当館の所蔵スペースはすでに満杯状態。常にスペース確保に苦心しています。

まずは書架の増設でしのぎました。次に「育英短期大学図書館除籍資料取扱内規」を作成、これに基づき、初めに複本の除籍を行いました。開学時ほとんどの資料に複本が用意されていましたので、これを廃棄することで、かなりスペースが生まれました。が、これも時間の問題。以後、利用頻度の低い資料等の廃棄・扇形の設置しづらい壁面をも可能な限り利用しての「続書架の増設」・雑誌はタイトルごとに保存年数を見直し、保存期間を過ぎたものは「ご自由にお取り下さいテーブル」に出す・紀要は関連学科のみ受入 10 年保存とするなどして、スペース確保に努めています。

「この資料、残すべきか棄てるべきか、それが問題だ」と悩む作業を繰り返す事で、かえって、当館が所蔵しておくべき資料が、はっきり絞られてきましたようです。

## 「ヌキヌキ隊」始末記？

群馬大学附属図書館

福島 啓介

大学法人化にあたり資産確定のため蔵書点検を行いました。開架書架は各棚ともほぼ満杯、新しく受け入れた図書や貸出が終わった返却図書を戻すのに場合によっては何棚、何連も移動しないといけない状況です。またせっかくの新規受入の図書も古い本に埋没してしまいこれでは利用者が気がついてくれません。場所によっては10連の書架が続き、点検の際にも気が滅入りました。点検の中盤から未登録本、重複本、破損したもの等々を片づけるために、館員の中から数名の「目利き？」を選抜し、資料の選別をしました。そのニックネームがヌキヌキ隊です。今回は図書館員だけでの組織でしたが、今後は教員にも参加してもらい、専門分野の目利きとして、これはもう資料として役目を終えたであろうというものを抜き出してもらうと共に、不足している資料を補っても

らおうと考えています。20万冊の開架を理想は半分の10万冊程度まで減らし、新刊が目立ち、ラクラク返本でき、清々しい書架を実現したいという計画です。そこで問題です！抜いた10万冊の行方は？加盟館の皆様からの名案を大募集！参考までに、名古屋大学では蔵書整備アドバイザーというきっちりとした仕組みで既に活動していました。（館燈 no.148 Aug 2003 p.4）残念！先を越されてしまいました！

## ささやかな所蔵スペースの拡大

高崎健康福祉大学図書館

副館長 橋本 登美雄

本学図書館は大学発足と同時に平成13年4月に開館している。大学は今年完成年度を迎える。図書の整備もかなり進んできた。所蔵スペースは、まだまだ余裕があると思っていたが、書架の増設も考えなければならなくなってしまった。今年は雑誌架の増設及び書棚を増やした。当初新着雑誌240誌をおける雑誌架を作ったが平成15年度で満杯になり、複式1連の雑誌架2台（60誌分）を増設した。また、棚板32枚を増やして、新書や文庫を別置した。

また、短期大学部分館では、開架図書室の他に主として学術雑誌を保存する書庫及び古い図書や一般雑誌を保存する集密書架の保存書庫があり、それぞれ満杯であった。昨年度末、学術雑誌以外の一般週刊誌やパソコン関係のノウハウ的な雑誌等を最近5年分を残して廃棄した。また、学術雑誌書庫の隣の部屋が空いたので、約34m<sup>2</sup>書庫を増設することができた。年々増える資料の置き場所は悩みのたねである。

## 書庫狭隘対策について

関東学園大学松平記念図書館

福士 奈緒子

当館でも施設・設備面の問題点として、書庫の狭隘化について頭を悩ませています。大掛かりな資料廃棄は行っておらず、外部倉庫への預託という方法で資料を別置しているのが現状です。

平成3年、合冊製本した雑誌(back number)を

中心に第1回の別置作業を実施してから、これまで預託した蔵書は約15%になります。預託資料を決定する際には過去の利用実績を判断基準にし、学生・教職員の利用に支障が出ないように配慮しています。

ここ数年間は、継続購入雑誌を見直してタイトル数の削減を行ったり、又受入中の一部の資料について保存年限を永年保存から短期(3年以下)保存へ変更するなど対策を取り、新たな別置資料は増えておりません。

当面の措置として外部倉庫への預託という方法でしのいてきましたが、保管料・入出庫料等予算面の問題もありますので、資料除籍も視野に入れ、狭隘化解消のためにも将来に向けて書庫収容力増加について検討をする事となります。

## 資料の廃棄に追われる日々

新島学園短期大学附属図書館

小山 みどり

昨年の夏は、図書館の改修で臨時図書室に引っ越ししたため、大幅な整理廃棄作業に追われました。今年も、書庫整理のため、同様の作業を実施中で、暑い中、汗を流す毎日です。おかげで、夏バテもせず、元気印です。

- \* 受贈紀要の保管も限界に達し、過去3年間分の紀要のみ保管することとなりました（県内等は、例外として今回は、廃棄見送り）。
- \* 雑誌類も、大幅な廃棄。学内での、公開廃棄。後、リサイクルに回す予定です。
- \* 新聞縮刷版の、廃棄。（朝日新聞を除く。）図書館等への寄贈を予定していますが、どこも収蔵スペース不足で、ただ今、募集中。
- \* 不要になった図書類の廃棄基準。今年度、実施予定。

廃棄が進み、今まで未整理になっていた部分が、片付くのは、快いものです。それにしても、きちんとした書庫が、ほしいものです。皆さんのお所では、どんな工夫をしているのでしょうか。

## 図書の廃棄について

明和学園短期大学図書館

小野里 喜一

本学図書館の問題点は図書館業務システムの未導入ということにあります。さらに、図書の廃棄についても現在のスペースでは検討課題となります。

本学の除籍規定によれば以下の5項目の場合について除籍相当としています。①2年間、亡失・紛失が認められた図書。②汚破損がはなはだしく、かつ修理製本を要しない図書。③利用価値が少なく、資料価値を失った図書。④複本扱いにする必要のなくなった図書。⑤館長が除籍相当と認めた図書。この内①と④については、結果として除籍せざるをえなくなったもので、消極的除籍規定と名づけるとするならば、②③⑤は積極的除籍規定となります。

では具体的に各分野別の図書で考えてみましょう。自由な創作活動に基いた小説の分野の場合、「○○文学賞」が優れていて他は劣っているといえるでしょうか。各分野の入門書と専門書に関して、入門書の優劣は比較的容易だとしても、専門書となると、その比較は困難といわざるをえません。このように見えてくると、除籍=廃棄にあたっては各分野別の《鑑識眼》が必要であるといえるでしょう。

## 本学図書館の近況報告

共愛学園前橋国際大学図書館

茂木 とし子

本学図書館は今年度、ビデオからDVDに変えていくことによって、ビデオデッキからVHS／DVD一体型の機器にすべて入れ替え利用者のサービスを図った。DVDはビデオテープに比べスペースも少なくてすみ、消耗度も少なく、金額も安いという点で良かった。学生の視聴覚利用が多いので、DVDを増やしていく予定である。

図書に関しては特設コーナーを設け、ある特定のテーマについての図書を収集・展示し、学生へのPRを図る予定である。これにより利用者数の増加が図れれば幸いである。

図書館システムもバージョンアップし、蔵書検索がいつでもどこからでもできるようになり便利になった。

また、現在本学は新コース設置へ向け準備中であるが、確実となればこの関係の図書の収集及び整備が必要となる。



## 群馬県公立三大学 図書館協議会 正式発足

6月23日(木)午後、玉村町の群馬県立女子大学に、前橋工科大学・高崎経済大学・群馬県立女子大学の図書館長・事務長6名が参集して開催されました。

冒頭、会議の名称・目的等について、戸澤県立女子大学図書館長から、「昨年度初めて顔合わせでしたが、今後とも年1回程度持ち回りで開催する県内公立3大学図書館の情報交換の場としていたい。」旨の提案があり、了承されました。

協議は、幹事館長が座長となり、議題ごとに、提案館から説明を受けた後意見交換する形式で進行されました。大きな議題としては、9月の東部地区館会議において、高崎経済大学を平成18年度公立大学協会図書館協議会会长館（総会開催館は県立女子大）とする案が協議される予定ですので、その対応について話し合われました。他に地域貢献の観点から一般県民への公開に伴う問題点やILL文献複写相殺サービスへの対応について、レンタル機能の充実についてなど幅広く盛りだくさんの話題に予定時間を越えて活発な意見交換が行われました。最後に館内を見学して散会しました。

(群馬県立女子大学 富所)

## 第2回 群馬県図書館大会 開催のお知らせ

### 趣旨

近年、図書館への期待や要求は、生涯学習社会の進展とともに、ますます多様化かつ高度化して増大してきています。しかし、図書館を取り巻く状況は依然として厳しく、次から次へと新しい問題の解決を迫られています。

群馬県図書館大会は、逆風の中で、図書館とは何か、利用者のために何ができるかを常に考え、課題解決に向けた研究協議をとおして、心豊かで生き生きとした活力ある地域を作るための図書館のあり方を探求し、県民への図書館サービスの向上を目指して開催いたします。併せて、家庭・地域や学校と図書館が連携協力して、子どもの読書活動の推進を図っていきたいと考えています。

### 記

主 催 群馬県立図書館等  
後 援 群馬県大学図書館協議会  
群馬県教育委員会等  
日 時 平成16年11月1日（月）  
午前10時から午後4時30分  
場 所 群馬県立図書館  
放送大学群馬学習センターほか

日 程	9:30~10:00	会場受付
	10:00~12:00	テーマ別分科会
	12:00~13:00	昼食・休憩
	13:00~14:00	テーマ別分科会
	14:00~14:20	会場移動
	14:20~14:40	大会行事
	14:40~15:10	表彰式等
	15:10~15:30	県内図書館の動向
	15:30~16:30	記念講演

横山秀夫氏

分科会 第1 図書館の連携	(高校・専門学校・大学)
群馬大学 高林桂子	高崎健康福祉大学 橋本登美雄
第2 子ども図書館	(小学校・中学校)
第3 県民と図書館	前橋工科大学 倉林邦男

### 平成16年度群馬県大学図書館協議会

#### 今後の予定

- 10月 第3回「会報」編集委員会
- 11月 第2回 群馬県図書館大会  
(群馬県立図書館等) (後援)
- 2月 「会報」第13号発行
- 3月 「相互協力便覧」2005の配布  
定例総会  
(共愛学園前橋国際大学)

### 群馬県大学図書館協議会会員名簿

育英短期大学図書館	群馬大学附属図書館	高崎健康福祉大学図書館短期大学部分館
関東学園大学松平記念図書館	群馬大学附属図書館医学分館	高崎商科大学図書館
関東短期大学松平記念図書館	群馬大学附属図書館工学部分館	東京福祉大学附属茶屋四郎次郎記念図書館
桐生短期大学図書館	群馬パース学園短期大学図書館	東洋大学附属図書館板倉分館
共愛学園前橋国際大学図書館	上武大学附属図書館	新島学園短期大学図書館
群馬県立医療短期大学図書館	上武大学附属図書館分館	放送大学群馬学習センター図書室
群馬県立女子大学附属図書館	創造学園大学図書館創造芸術学部	前橋工科大学附属図書館
群馬工業高等専門学校図書館	創造学園大学八千代キャンパス図書館	明和学園短期大学図書館
群馬社会福祉大学図書館	高崎経済大学附属図書館	
群馬松嶺福祉短期大学図書館	高崎健康福祉大学図書館	

編集後記 会報第12号をお届けします。会員のみなさまから原稿をお寄せいただき、ありがとうございました。編集委員 関口 富江(明和学園短期大学) 瀧澤 憲也(群馬大学) 富所 文弘(群馬県立女子大学)